

組合基本方針

組合の団結と調和

岩佐光章さんの功績

流山工業団地協同組合初代理事長 岩佐光章氏が、平成 21 年 11 月 21 日ご逝去されました。享年 75 才。余りにも早い突然のお別れでした。

岩佐氏は、ふところが大きく、人の痛みが分かる人で、もっともっと相談したい事が沢山あったのに、残念でしようがありません。

岩佐さんの残された功績は多々ありますが、ここでは組合関係について触れてみたいと思います。

昭和 56 年、当時問題になっていた住工混在問題を解決するべく流山市内に工業団地を建設し、移転、操業することを目標に、流山市商工会工業部会有志が立ち上がりました。調査・研究を進め、昭和 59 年 4 月、流山市内に工業団地を造ろうと決意し、流山市工場集団化準備会が設立されました。

昭和 61 年 6 月、最終的に 25 社が集まり流山工業団地協同組合を設立。昭和 56 年から昭和 61 年の組合設立までの間、中心的役割を果たして来たのが岩佐氏で、当組合の初代理事長に就任されました。

その後、工業団地の建設に向けて当時の流山市長 秋元大吉郎氏と二人三脚で用地の決定から買収、国及び千葉県制度資金を利用など事を推し進め、また、その中で次々と発生する多種多様な困難を乗り越え、平成 3 年 5 月、ついに工業団地が竣工し、組合員企業の移転、操業を成し得ました。

工業団地の建設を必ず実現するとの強い願望と、組合員を引っ張るリーダーシップがあった、岩佐理事長なくしては、出来ない事業でした。

ここに組合員一同、深い哀悼の意を表します。

年度方針

組合運営原点回帰

後継者の育成

経営革新に取組み発展基盤を強化

11月26日に岩佐光章氏へ贈られました弔辞により、故人に追悼を捧げます。

弔 辞

謹んで故流山工業団地初代 岩佐理事長のご霊前に申し上げます。

私共、流山工業団地協同組合の生みの親として、そして育ての親として先頭に立ちご尽力下さいました事は周知の通りであります。真に感謝に耐えないところでございます。

思えば今から25、6年前になりますでしょうか、「流山市内に工業団地を」との夢を叶えたく、実現の為に行政や商工会、そして関係機関に働きかけ奔走されましたね。その努力には頭が下がる思いでした。私共組合員は、岩佐理事長を信頼申し上げ、尊敬の念を抱き心が一つになりました。そしてついに、平成3年5月に竣工の運びとなり、あの感激はいまだに脳裏に焼きついて忘れることは出来ません。岩佐理事長、ありがとうございました。そして、今日の繁栄と成果を挙げる様になりましたのも、この間において常に高い指導力と時代感覚とをもって多くの困難と戦い、苦難を乗り越えて我が組合を導いて下さった岩佐理事長があったればこそその事ではないでしょうか。

岩佐初代理事長の突然のご逝去に接し、私共組合員一同はただ暗然たる思いにひたるばかりですが、しかし時の流れは一刻の猶予もなく進むばかりであります。この時にあたり、いたずらに嘆き悲しむばかりでは、かえって岩佐光章氏のご意思にそむくことにならうかと思われます。

今ここに、岩佐氏のご永眠を心から惜しむと共に、初代理事長の下に当時の組合のスローガンである「築こう人の和」、「出し合おう皆の英知」、「目指そう日本一の工業団地」これを胸に刻み、そして私共組合員は団結と調和をもって、今後のますますの発展に全力をあげて邁進することをお誓いするものであります。

長きに渡りご指導いただき、誠に有り難うございました。厚くお礼申し上げます。

岩佐初代理事長のご冥福をお祈り申し上げ、お別れの言葉とさせていただきます。

平成21年11月26日

流山工業団地協同組合

理事長 高橋 啓治

弔 辞

流山市産業功労者 元流山市商工会副会長 故 岩佐 光章 様のご霊前に、謹んで弔辞を捧げます。

岩佐さん、流山市長の井崎です。

去る11月24日、岩佐様の突然の訃報に接しました。

報告する秘書の言葉に一瞬我が耳を疑うとともに、いつも心穏やかに語りかけてくださる岩佐様の温顔が脳裏に浮かび、淋しさと悲しみが込み上げて参りました。

まだ75歳、これからの流山市商工業の発展についていろいろとご教示願いたいと思っていた矢先の知らせでした。

岩佐様を知る多くの方々が今、深い悲しみに沈んでおります。

商工業界のみならず、本市行政にとっても、あまりに惜しい大きな損失であります。

岩佐様には、商工業の振興、発展に、多大な御貢献を頂くとともに、市内商工業の育成について大所高所のお立場から御助言を頂くなど、様々な分野で御協力とお力添えを賜り、その御功績は枚挙にいとまがありません。

とりわけ、岩佐様におかれましては、優れた先見の明で時代を読み取り、栄光産業株式会社取締役会長として一時代を築き、類まれなる経営者としての能力を発揮し、後進の人材育成に全力を傾注されました。

その傍ら、持ち前の強い責任感と卓越したリーダーシップを持って、昭和63年から商工会副会長として、市内商工業の育成に御尽力頂きました。

昭和61年6月19日、流山工業団地協同組合の設立の折には、初代理事長に就任、以後、7年にわたって長として市内工業発展の礎も築かれました。

その後も、組合の顧問や相談役として、工業団地の整備やその発展に岩佐様の多大なる御貢献があったことは、この場にいる誰もが御承知の事実です。

一方で、昭和63年から17年間、本市中小企業資金融資運営委員会委員長として、市内、中小企業への資金融資について、貴重なご提案やアドバイスを頂きました。

また、バブル景気崩壊後の平成7年10月からは第二次流山市行政改革大綱の策定に行政改革懇話会委員として、その優れた見識と先見性を持って、数々の御進言を賜り、本市の行政改革に多大なる御尽力を頂きました。

このように、岩佐様におかれましては、商工業基盤の確立に力を注がれるとともに、本市行政においても数々の御功績を残していただきました。

幅広い分野で御活躍される岩佐様の数多くの御功績に対し、本市としまして、平成18年には、市最高の榮譽であります流山市表彰条例に基づく産業功労表彰をお贈りし、その榮譽を称えさせて頂きました。

市の表彰式典での、岩佐様のやさしさに満ちた笑顔、今でも鮮明に脳裏に焼きついております。

つい半年程前も、岩佐様の御自宅の前を通りかかった私共夫婦に、庭先からお声をかけて頂き、励ましのお言葉を頂きました。あの時の笑顔とお言葉は忘れ得ぬ心の宝でございます。

何よりもあなたの心残りは、最愛の奥様を残して旅立たなければならなかったことでしょう。心中察して余りあり、なぐさめの言葉もございません。願わくば、あなたの御霊がご遺族の前途に限りないご加護をもたらして頂くことを、ひたすらお願いするのみであります。

私は、岩佐様の愛したこのふるさと流山を、今後より一層誰からも愛されるまちへと躍進させるために全力で取組んで参りますこととお誓い致します。

惜別の情は尽きませんが、ここに謹んで哀悼の意を表し、衷心よりご冥福をお祈り申し上げ、岩佐 光章様へのお別れの言葉といたします。

平成21年11月26日

流山市長 井崎 義治

弔 辞

岩佐光章さん、秋元大吉郎であります。

元流山工業団地協同組合第一代理事長、栄光産業会長、岩佐光章様の御霊に謹んで惜別の言葉を述べさせていただきます。

光章さん、お判りでしょうか、本日は工業団地の方々はもちろん、市関係、商工会関係の方々を始め、大勢の方々が生前の御交誼に感謝し、あなたの御遺徳を慕ってお集まりをいただいております。

私があなたの訃報に接したのは11月21日午後1時頃でありました。受話器の奥で栄光産業社長岩佐恵司氏の悲しみに沈む声があなたのご逝去を告げておりました。私は一瞬「まさか」と耳を疑いましたが、奥様キソ子様からのお言付けもございまして、あわててお悔やみを申し上げる様な次第でありました。

永い永い御交際ではありましたが、岩佐光章会長と私の決定的な出会いは昭和56年10月流山市中小企業工業団地調査研究協議会設立総会でありました。あなたが商工会関係者の皆さんから推されて会長をお受けになり、私は当日県議会議員として来賓で参列しておりましたが、あなたの心中を察し、これは二人で工業団地建設に生命を懸けねばと、痛切に臍を噛み締め合った出会いでもありました。

昭和58年5月私は推されて流山市長に就任、あなたは昭和59年8月、この時点では仮称ではありましたが、流山工業団地協同組合の理事長に就任されました。あなたと私は、ここで工業団地づくりのため絶対に後戻りできない立場に立たされてしまいました。

しかし、光章さん、あなたははりっぱでした。「誠実」にして「融和」、二階から目薬を差すような難題に対しても不動の信念、加える人心の掌握力は抜群、更に「天の時」「地の利」「人の和」の実現を導く偉大な哲理をわきまえておられました。志を同じくする25社の社長各位の信頼と団結と上坂さんと云う名事務局長を得ました。行政では市の齋藤勝夫助役以下、商工課柳沢要三課長、北村一郎係長など、商工会は伊藤重三会長はじめ役職員の各位、こうした方々が目の色を変えて応援支援者となってくれました。更に大きく時の千葉県沼田知事以下県庁関係機関あげてのご支援をいただいたのであります。もう一言申し上げねばなりません。それは、あなたの奥さん、キソ子様を中心として各社社長の奥様方の底力を忘れることは出来ません。人は石垣、人は城でありました。

光章さん、あなたの口癖は「日本一の工業団地を造る」と言うことでした。しかし、新川耕地に工業団地が出来るのは奇跡だと陰口を言われたことも事実であります。ところがこの奇跡が実現したのです。平成3年5月、あなたが命がけの流山工業団地が完成しました。男のロマンの実現でありましたね。以来、地域の融合を求め全国に類を見ない工業団地として県内外から注目を集めるとともに、市内産業の振興拠点として大きく貢献されております。あなたからバトンを引き継いだ二代目三浦敏明理事長、三代目高橋啓治理事長ともども見事にあなたのロマンを継承されておられます。また、よく、子は親の背中を見て育つと言われますが、ご子息大介さんがしっかりと団地内での要職をこなし、自社の隆盛に大変な努力をなされておると聞き及んでおります。ご安心下さい。

光章さん、あなたのいま一つの心残りでありました商工会の商工会議所への移行であります。かつてあなたの片腕でありました上坂操さんが頑張ってくれております。ただ今平成22年3月の商工会議所移行に向けて準備進行中でありまして。晴れの日確認が果たせ得なかったことは残念でありましたが、以って瞑すべしであります。

さあ、この辺でどうです、光章さん、あなたの自慢の小唄の一節を聞かせてくれませんか、和服姿で三味にのせて小唄を謡うあなたと、勝山喜美子さん宅で一緒にいたことがありましたね。成島茂さん、小坂稔さんも一緒にいた。ともかくたまらない位、親しみを満喫させていただきました。仕事の出来る男は遊びの魅力も満点でありました。確かお正月の午後の日差しがとろんとするような日でしたね。

心許す男ばかりの「空なる場所」の「空なる時間」でありました。

あなたとの思い出は走馬燈のように脳裏を駆けめぐりつきるところを知りません。光章さん、本当にありがとうございました。永い間御苦勞をお掛けしました。お疲れさまでございました。

さぞや天上界は風のささやき、花野がひろびろと展けておることでありましょう。どうぞ花の褥に身を横たえて静かにお休み下さい。そして奥さまをはじめご遺族はもとより、岩佐恵司社長を中心とする栄光産業皆様に、厚い厚い御加護を賜りますように、更には流山工業団地各社のますますの発展に御愛護を賜りますようお願い申し上げ、お別れいたします。

光章さん、岩佐光章さん

さようなら さようなら

逝く水の音に山茶花散り急ぐ

大吉郎

平成21年11月26日

秋元 大吉郎

岩佐光章さんと力を合わせ、流山工業団地を創るために事務局長として協力された流山市商工会 専務理事 上坂 操氏（当組合 前専務理事）に、岩佐光章さんを偲んで寄稿していただきました。

岩佐光章さんを偲んで

私は社会に出て44年間と成りますが、その間の36年は流山市で過ごさせて頂いておりますが、その間仕事をしてきた中で考えてみますと岩佐さんとは何かとご縁がございました。

お聞きした記憶を辿ると工業用ラベルの販売会社の経験を生かされ流山市平和台に栄光産業(株)を創業され今日の礎を創られたとの事。その後、業績も拡大され市野谷に移転されたが、「狭隘による生産能力の制限」や「住工混在」により工業団地に移転しています。私が流山市商工会職員になったのが、昭和49年6月、岩佐さんが昭和50年より商工会の理事（第3支部長）に就任され、この時が初めての出会いでした。思い起こせばこの時から岩佐さんとは流山工業団地を創るという見えない糸で結ばれていたのだと感慨にふけているところです。岩佐さんは、商工会の理事で構成する工業対策委員会にも所属され、この中で流山市内の工業振興策について指導的立場でご協力を頂き、奔走されました。

当時は商工会の工業事業所会員からは商工会は商々会だとの痛烈なご意見等もあり、昭和52年6月商工会組織の先鞭をきって「工業部会」を設立し、初代部会長に日邦紙工(株)故丹森享市氏が就任し、部会運営が活発に開始されました。

ご存知のとおり当時の流山市は首都圏のベッドタウンとして人口が増加しており、無秩序な開発により工場と住宅が隣接し住工混在問題が発生し、商工会傘下の工業関係者から多数報告がよせられ、工業経営者がさらされる魔女狩りの案件も発生する有様でした。当時の工業部会の中には公害対策委員会が組織されており、岩佐さんはこれらの住工混在問題に深く関与し工業経営者の味方でありました。

住工混在問題を改善し、安心して工場の生産活動が出来る工場団地を市内に創ろうと工業部会の後押

しにより流山工業団地の前身、流山市中小企業工業団地調査研究協議会が昭和56年10月、岩佐さんが会長になり産声を上げたのであります。岩佐さんと私の工業団地創りでの合言葉は、内外関係者には「組織の強固な結束」、「流山市当局に工業団地を創らざるを得ない状況を創ろう」でした。構成企業には、構成員企業の投資額を仮想しての診断での経営体力の確保、投資額頭金の確実化を実施し、事務局の設置を要望しました。

岩佐さんから、「工業団地ができるかどうかは、二人が工業団地が出来る星の下にいるかどうかだ、とつまり運があるかどうかということであるが、運や幸福は努力の裏にある」と言われたことと、前流山市助役 故齋藤勝夫氏が、「団地創りには冒険ダン吉ならぬ、強固な団吉（団地創り狂い）がいなければ出来ないよ」と言っていた言葉が思い出されます。

昭和61年5月の流山工業団地設立総会において理事長就任、昭和61年6月千葉県より組合認可の取得、平成3年5月流山工業団地竣工、移転操業開始、平成5年5月まで理事長を勤められました。

ここで少し我田引水的であるが、小生が現在、流山商工会議所の設立を確固たる物にしたいと言うことには下記の様な訳があります。

私は、昭和61年3月31日で商工会を退職し工業団地事務局である流山工業団地協同組合職員となりました。その折りどうも岩佐さんは、私の人事のことで商工会関係者より攻め立てられたようで、これが全ての理由ではないようですが、昭和63年5月に故内藤茂雄会長の下、副会長に就任したと関係者から聞かされました。商工会議所移行の問題も内藤会長時代の平成元年8月10日開催の商工会理事会において、流山市商工会組織対策調査委員会を設置し、会議所移行を目指したのです。そして、平成4年12月に商工会長宛で商工会議所移行に関する答申書が提出されました。平成13年9月の商工会理事会で、つくばエクスプレス開業5年を経過した時点で延期するとの理由で今日に至っております。つくばエクスプレスの開通は、平成17年8月で、平成22年4月は延期理由の満期明けであり、流山商工会議所設立を迎えます。

岩佐さんには、商工会議所移行の事務局を引き受けた平成19年5月以降も時折お邪魔して会議所移行のご報告しました。移行については、大変気に掛けていただき、組織を動かす神髄を教授いただきました。亡くなる直前の11月17日に病院にお見舞いにお伺いしましたが、別れ際に「商工会議所どうなっている」との問いかけに必ず創りますと約束させていただきました。

岩佐光章さんのご冥福を心よりお祈り申し上げます。安らかに

上坂 操

流山工業団地協同組合

編集・発行：青年部

〒270-0107 流山市西深井 1028-46

電話 04(7153)3001